

ブルース・リチャードソン氏のプロフィール

紅茶・緑茶ブレンダー、著者、講演者であるリチャードソン氏はこの 25 年間アメリカ合衆国における茶業界をリードしてきました。Tea Time, Tea Journey and Fresh Cup 各誌の編集者でもあり、寄稿者でもあります。今年の 1 月には静岡県茶業界取材し、各誌に記事を投稿しました。

また、氏はお茶や茶業界の歴史家でもあり、2011 年にはマサチューセッツ州ボストン市にあるボストン茶会事件博物館のティーマスターに任命されました。

執筆活動を活発に行い、これまでに紅茶、緑茶、茶業界の歴史などを取り上げた本を 14 冊出版しています。特にイギリスの茶業界の第一人者であるジェーン・ペティグリュウ氏と共作したニュー・ティー・コンパニオンという世界各地のお茶ハンドブックは、世界中の茶業界の専門家から高く評価され、各地のお茶専門店でも参考資料として使用されています。また、2012 年に再発行された岡倉天心の名著である Book of Tea の編集者でもあります。最新著作ではこの 400 年間を通じて、紅茶や緑茶がアメリカ合衆国や英国の商業や文化にどのような影響を及ぼしてきたかを社会や歴史的な観点から分析し、わかりやすく解説しています。

Bruce Richardson



<http://store.elmwoodinn.com/bruce-richardson.aspx>

ブログ <https://www.bostonteatpartyship.com/tea-blog>

Mr. Richardson, a native Kentuckian, is a leading tea expert and spends much of his time educating Americans in the art of celebrating the communal cup of tea. He is a writer, photographer, tea blender, and frequent guest speaker at tea events across the country. and can often be found appearing on television and radio talk shows, or as a guest speaker at professional seminars such as World Tea Expo. ブログより

ケンタッキー出身のブルース・リチャードソン氏は世界的に有名な紅茶の専門家です。日ごろからアメリカ人に紅茶の楽しみ方について教えています。紅茶に関する多くの出版物もあり、全国の紅茶の行事にゲスト・スピーカーとして呼ばれています。また、テレビやラジオにも出演し、世界紅茶博覧会のゲスト・スピーカーを勤めています。

講演「ジェーン・オースティンと紅茶のいろいろ」

ジェーン・オースティンやその登場人物が暮らしていた19世紀初頭の高きイギリスの家ではどの紅茶がどのタイミングで飲まれていたのでしょうか。彼女の小説には、「紅茶の事柄」が頻繁に出てきます。「プライドや偏見」、「ノーサンガー修道院」、「説得」「マンズフィールドパーク」や「エマ」などの小説に描写されているように、如何に紅茶の事柄やマナーが、当時の社会の中で非常に重要な役割を果たしていたかについて考察する手助けをリチャードソン氏が行います。

● THE TEA THINGS OF JANE AUSTEN (YPU as a community outreach project)

Which teas were drunk and at what time of day tea was served in early 19th century British homes like that of Jane Austen and her characters. In her novels, Austen often refers to "the tea things". Richardson helps us consider what those tea things were and how manners played a significant role in society as depicted in *Pride and Prejudice*, *Northanger Abbey*, *Persuasion*, *Mansfield Park*, and *Emma*.

講演「アメリカの独立運動のきっかけとなった5つの紅茶」

アメリカの独立運動の始まりと言われている「ボストン・ティー・パーティー」について、紅茶の面から面白く歴史を振り返る講演です。

ボストン港に投げ込まれた5種類の中国茶が、英国のジョージIII世と小説家ジェーン・オースティンの茶箱を供給したのと同じ東インド会社の倉庫から、どのように持ち込まれたのかを説明します。英国人が紅茶をこよなく愛する国民であることは、世界中の人が知る事実ですが、植民地時代のアメリカの住民も紅茶を愛し、ティータイムに使用する家具や銀製品や陶磁器などをイギリス人と同じような感情を持って大事にしていました。彼らのティータイムは、国家の誕生をもたらした革命につながる党に導かれた儀式でした。

● FIVE TEAS THAT LAUNCHED A REVOLUTION

Richardson describes how the five Chinese teas that were tossed into Boston Harbor originated from the same East India Company warehouses that supplied the tea caddies of Britain's King George III and novelist Jane Austen. The world knows how Britain's love for tea had given rise to the crafting of countless "tea things," a term often used by Austen, but residents of Colonial America had a similar passion for fine furniture, silver, and porcelain dedicated to their own tea ritual. Theirs was a ritual that led to a party, that led to a revolution, that led to the birth of a nation.

Boston Tea Party

ボストン・ティー・パーティー◆《米国》英による紅茶税、東インド会社の紅茶特権に反対するボストン植民地がボストン港の3隻の紅茶船を襲い紅茶を投げ捨てた事件(1773年12月16日の夜)。Samuel Adams、Paul Revere等がアメリカインディアンに扮して急襲。ニューヨーク、フィラデルフィアでは課税された紅茶の入荷をすでに拒絶していた。事件後、米では紅茶よりもコーヒーが好まれるようになった。